

栃木県クライミング強化選手の活躍

■2018/06/24 報告:北村(ネット配信動画観戦)

第1回コンバインド・ジャパンカップ盛岡 2018

男子初代王者は榎崎智亜！ 榎崎明智が銀！



左から 榎崎明智選手、榎崎智亜選手、緒方良行選手。

期日:2018年6月23日(土)・24日(日)

会場:岩手県営運動公園(スピード、リード)、岩手県勤労身体障がい者体育館(ボルダリング)

出場選手:榎崎智亜(Team au)、榎崎明智(Team au)、川又玲瑛(宇都宮市立瑞穂野中学校)

選手引率:川又学

[《大会要項》](#)

[《大会リザルト速報》](#)

[《大会リザルト》](#)

東京オリンピックでのクライミングがコンバインド(3種目複合)で行われることを受け、ついに国内初のコンバインドの本格的な公式大会、「第1回コンバインド・ジャパンカップ盛岡 2018」が開催されました。国内の競技クライミングに新たな歴史を刻んだ大会ですので、少し長く書いておきたいと思います。

そもそも出場条件が厳しく、ごく限られた精鋭中の精鋭のみが参加する国内最難関の大会。栃木からは榑崎智亜選手、榑崎明智選手、川又玲瑛選手の3名が参戦！



昨年の世界ユースに出場した選手(榑崎明智選手や川又選手など)はすでにコンバインドの洗礼を受けているものの、多くの選手やクライミング関係者にとってコンバインドという形式はまだ未知の世界。

実際に競技が進行していく過程で、初めて「なるほど、こういう展開なのか！」と理解できる、そんな感覚を抱いた方も多かったのではないかと思います。

会場について

■スピード壁

中学生ながらオリンピック女子強化選手に選ばれている伊藤ふたば選手を擁する岩手では、既存のリード壁(写真左)の隣にスピード壁(写真右)を増設し、栄えある初のコンバインドの公式大会の開催地となりました。

このスピード壁は、中央の競技壁に加え、左右には上半分と下半分を再現した練習壁も設



置。これなら効率の良い練習ができることでしょう。

伊藤ふたば選手の価値を理解してこうした施設を用意した岩手はさすがです。

2020年には、オリンピック直前にこの施設でアジア選手権が開催される話も進んでおり、地域への経済効果にも期待がかかっていることでしょう。

ほかにも東京、奈良、大阪、千葉などで続々とスピードやコンバインドを見据えた施設が作られています。

スピード種目では早くもそのスペシャリストも出現しており、突如として日本ランキングの首位に躍り出たことも記憶に新しいです。

榑崎兄弟や川又選手を擁する栃木ですが、スピードやコンバインドへの取り組みでは取り残されている格好です。

栃木岳連は、競技団体として施設要望を継続的に働きかけていく必要があるでしょう。

■気温について

当日は天気が良く、気温が30度近くまで上がったらしく、選手のパフォーマンスも影響を受けたのではないかと思います。

室内のボルダリング会場は特に熱く、セッター陣からは課題を作った時の狙いが外れてしまうことを危惧する声もあったようです。

予選

※男子をメインに記述します。

■スピード予選

初のコンバインドはスピード種目から開始。

まず、競技の前に練習時間がありました。

競技は2人並んで行われますが、予選ではその時の勝ち負けではなく全員のタイムにより順位が出ました。

左右を入れ替えて2回登り、いいほうのタイムが採用されます。

ゴールしたと思いきや、タッチが不十分で計時が止まらなかったり、フォルス・スタート(フライング)してしまうとやり直しはないなど、慣れが必要な面があります。

特にフォルス・スタートについては、1回目でこれをやってしまうとその時点で失格となり、2回目はやらせてもらえません。(※1回目でタイムを出しておけば、2回目で失敗しても1回目のタイムは採用されます。)

川又選手も1回目のフォルス・スタートに泣く結果となりました。

一方、自己ベストを更新する選手も続々と現れました。その筆頭が榑崎智亜選手で、駆け上がるような勢いで日本新記録 6"93 を叩き出して1位となりました！

女子の1位は伊藤ふたば選手。地元のこの壁でしっかりと登り込んだことが伺えます。

なお、スピードの競技時間は実にあっという間だったことも印象的でした。

■リード予選

スピードの次は、男子はリード、女子はボルダーでした。

男子リードは、榑崎明智選手が唯一人完登して1位となりました！ 余裕すら感じさせる登りは実に巧みでした。

榑崎智亜選手は痛恨のクリップミスで25人中21位。余力はあっただけにもったいない結果でした。

川又選手も24位と振るいませんでした。

コンバインドは最終的に各種目の順位を掛け算し、そのポイントが少ないほうが上なので、どれかの種目で1位をとっている選手はかなり優位となります。

■ボルダリング予選

男子ボルダーは、榑崎智亜選手が手堅く2位！ 今年のワールドカップ年間総合優勝にも王手がかかっている実力を着実に発揮してくれました。

川又選手は、スピードとリードの不調を補って余りある熱い登りを見せ、ワールドカップ級の強豪たちがひしめく中、第2課題を完登したことで8位に浮上！ 男子最年少の出場者であったことを考えれば見事というしかありません。

榑崎明智選手は、ボルダーでは振るわず13位でした。

全ての予選が終わり、榑崎智亜選手がスピード1位×リード21位×ボルダー2位=42ポイントで1位。

榑崎明智選手はS4×L1×B13=52ポイントで2位。

6位までが決勝進出。

川又選手はボルダーでは健闘したものの18位となり、残念ながら決勝進出を逃しました。

予選結果を報じる、翌日の下野新聞スポーツ面の記事。



決勝

■女子決勝

一夜明けて決勝。

ここでは栃木の選手をメインに書いているため、女子の結果は簡潔に記載することとめます。

初代女王は野口啓代選手(スピード3×ボルダー1×リード2=6)でした！ 3種目という過酷な内容でも通用してしまう女王振りに、誰もが改めて脱帽です！

2位は伊藤ふたば選手(S1×B3×L3=9)。地元開催で見事に期待に応えた結果でした！

3位は谷井菜月選手(S4×B4×L1=16)。伊藤選手同様、驚異の中学生世代の一人です！

ワールドカップで活躍する野中生萌選手は4位に留まりました。

■男子スピード決勝

スピードの決勝は、予選のようにタイムで順位がつくのではなく、とにかく隣の選手より速ければ勝ちとなり、トーナメント方式で勝ち上がっていくスタイル。

その結果、榑崎智亜選手が1位、緒方良行選手2位、榑崎明智選手3位となったのですが、智亜選手はなんと前日をさらに上回る6”87で日本記録をさらに更新！ まだまだ進化する瞬間を見せつけました！

様々な大会において、ここぞという場面で最高のパフォーマンスを発揮できる能力。フィジカルやテクニクのみならず、メンタル面や脳内物質の分泌などでも王者の資質があるということなののでしょうか。

■男子ボルダー決勝

予選ではボルダーが伸びなかった榑崎明智選手が、決勝では唯一人全完登で首位に浮上！ あの体格やリーチから繰り出されるムーブには異次元の強さがありました！

榑崎智亜選手は4位となり、2位・緒方選手、3位・原田選手が脅威となります。

■男子リード決勝

初のコンバインド公式大会の締めくくりには、劇的な兄弟対決が待っていました！

原田選手が高度記録 35、緒方選手・杉本選手・高田選手が 35+と並んだ後、残るは榑崎智亜選手と明智選手の2人のみ。

まずは智亜選手。強豪たちを叩き落した難所・35 に差し掛かり、観客が固唾をのんで見守る中、初代王者に向けて一手、さらに一手と駒を進め、結果 37+まで到達！ リードでもその強さに感嘆！

そして最終競技者は明智選手。予選のようにここで完登でも決めてしまえば兄を逆転可能であり、それだけの力があることも確か。

越えるのか、越えられないのか!?

どちらの結果を望むでもなく、ただただこの結末を見届けるのみ。

果たして!?

……難所・35+でフォール！ その瞬間、兄・智亜選手の優勝が確定しました！

榑崎智亜選手はスピード1位×ボルダー4位×リード1位=4ポイント。

榑崎明智選手はS3×B1×L2=6ポイント。

緒方良行選手はS2×B2×L3=12ポイント。

国内初のコンバインドの公式大会は、榑崎兄弟のワンツーフィニッシュという、栃木にとっては最高の結果を残しました。

大会結果を報じる、翌日の下野新聞一面の記事。



第1回コンバインドジャパンカップの初代王者たち。

男子:榎崎智亜、女子:野口啓代。

オリンピックを控える今、多くが納得する組み合わせですが、意外に智亜君の国内公式大会優勝はユース時代以来となります。



■コンバインドという競技形式について

先の展開が読めず、種目ごとで見ると番狂わせ的な場面もあるにはありましたが、少なくとも今回の大会に関してはまずまず順当な結果に終わった感がありました。

スピードはどの選手ものびしろがかなりあるでしょうから、自己ベストを更新する選手はどんどん増えていくに違いありません。練習環境の有無にはかなり左右されるようになっていくでしょう。

3種目が2日間続くのは相当ハードだったはずですが。練習への取り組みも含めると、選手にかかる負荷は過酷で、今後は故障も心配になってきます。

いつかは各種目ごとに金メダルが出るようになることを期待して、まずは東京オリンピックのクライミングが成功するようみんなで盛り上げていきたいですね！

出場した全ての選手、大会スタッフ、現地で応援された皆さん、本当にお疲れ様でした。

■おまけ

会場には栃木勢・第4の男の姿も！
芝田将基君がセッターの一人でした。



予選前日は榑崎智亜君の22歳の誕生日でした。左は川又玲瑛君。

